

現代東アジア研究

ー政治、経済、文化、宗教など多様性に富んだ東アジアに平和と安定をもたらすにはー

星野 昌裕

研究室番号：Q4609

1. プロジェクト研究テーマの設定理由と内容

(1) 養成する人材像：日本は、自らもその一員である東アジア各国・各地域との相互依存関係をますます深めており、日本の企業・官公庁で東アジアとのつながりを持たない組織は皆無といってよい。大学を卒業し社会人として活躍しようとするれば、東アジアとの接触を避けて通ることができないにもかかわらず、東アジアで起きている時事問題を専門レベルの知見を駆使して説明し、その解決に向けた政策を提言できる人材は極めて限られている。本プロジェクト研究では、本学の教育モットー「人間の尊厳のために」に基づき、その能力を備えたグローバル人材を養成する。

(2) 研究テーマ：日本、中国、台湾、朝鮮半島、ASEAN そしてアジアに強い影響力をもつアメリカやロシアをめぐる時事問題を事例に取り上げて、政治学、経済学、国際関係学、社会学、民族学などのディシプリンを学際的に駆使しながら、その問題が発生した要因の解明と問題解決に向けた政策を提言する。

2. プロジェクト研究の進め方

(1) 3年次 Q1 (週 2 コマ)：①東アジアの時事問題をテーマに意見交換を実施し、Global Leader に必要な問題発見・解決力を養成する。②グループワークを行う。参考までに、2023年度は台湾（高雄市）のカトリック大学・文藻外語大学と日本語を使った Collaborative Online International Learning (COIL) を実施し、中台間の学生交流を行った。COIL の詳細については、南山大学 NU-COIL の WEB (<https://office.nanzan-u.ac.jp/nu-coil/>) を参照のこと。

(2) 3年次 Q3：テキストを指定して専門書を輪読する。その中の 1 冊には、1887 年刊行の古典的名著・中江兆民『三酔人経綸問答』(岩波文庫) が含まれ、歴史的視点からアジア問題に対する政策提言能力を涵養する。

(3) 3年次 Q4 から本格的に卒業論文の作成に入る。卒論のテーマは、アジア研究分野からの設定が望ましいが、政治学、国際関係論、エスニシティ論など社会科学のディシプリンを使って分析可能なテーマであれば、アジア以外を研究対象としても構わない。

3. プロジェクト研究のための前提科目および関連科目

(1) 総合演習の履修について：このプロジェクト研究を希望する学生は、3年次の Q1 に開講される総合演習 A (担当：星野) を履修すること (やむを得ない理由で履修が難しい場合には相談すること)。

(2) コース選択について：特に指定はしないが、国際政策コースの履修が望ましい。

(3) 関連科目の履修について：指導教員が担当する「政治変動論」を履修すること。

4. プロジェクト研究開始までの準備

東アジアの時事問題に関心を持ち、積極的な情報収集につとめること。

5. その他

(1)本プロジェクト研究希望者は、「南山の先生」

(https://www.nanzan-u.ac.jp/nanzan_faculty/fop/pp/012549.html) や大学院コラム

(<http://depts.nanzan-u.ac.jp/grad/ss/column/policystudies/015335.html>) を読むこと。

(2)グループ単位での研究報告があるため、授業時間外の共同作業が必要になることを承知するとともに、無断欠席や遅刻の厳禁など、ゼミのルールを遵守すること。

6. 選考方法

(1)出願の前提条件：プロジェクト・アワーに出席するか、個別面談を受けていること。

(2)選考方法：意欲を最重視し、志望理由書、面接、レポートなどを総合して判断する。

(3)その他：詳細については、プロジェクト・アワーで説明する。